

# 山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi  
Veterinary Medical Association

第 727 号 令和 3 年 12 月

## 令和 3 年度産業動物講習会

山口支部 大石 大 樹  
(山口農林水産事務所畜産部)

11月20日(土)、山口大学共同獣医学部において、令和3年度産業動物講習会が開催されました。昨年度は新型コロナウイルスの影響により開催できませんでしたが、今年は山口大学のご協力により、対面とオンラインを併用したハイブリッド方式により、密を回避して開催することができました。当日は酪農学園大学と山口大学、さらには会員をオンラインでつなぎ、会場27名、オンライン19名の参加を得て、阿部紀次教授に「牛の蹄態管理の実際」についてご講演をいただきました。

阿部先生は下関市のご出身であり、日本の蹄管理のトップランナーとして牛の蹄管理の重要性を説かれるとともに、大学等で“牛の蹄を診る”人材育成にも尽力しておられます。

講演では、まず牛の起立動作を改めて動画で確認し、起立時にどの部分に負荷がかかっているかを確認しました。牛は後肢から起立する動物であり、後肢の蹄尖を地面に突き立てて起立するため、後肢下にグリップ力のある素材が必要であることが説明がありました。そのため、冬に北海道で足が滑らないように玄関マット等で使用される「有孔ラバーマット」を牛床に使用した事例の紹介がありました。牛にとって床が滑ることは起立の際のストレスとなるだけでなく、捻挫、脱臼、筋断裂、乳房損傷など様々な危険性があり、滑らない床の重要性について改めて考えさせられました。

続いて跛行による経済的損失についてのご説明がありました。地域によって差はあるものの、世界の乳牛の25%が跛行しており、跛行の原因の80%が蹄病であること、また跛行による影響は死亡・廃用・淘汰率の増加だけでなく、乳量減少や受胎率低下にもつながることから、その経済的損失は思っているよりも大きいとのことでした。蹄病には蹄葉炎、蹄底潰瘍、白帯病など様々な種類があり、各疾病の発生

のメカニズムについてもご説明がありました。蹄底潰瘍や白帯病は、牛の体や組織の構造に基づいて発生するため、発生予防には農場での飼養管理が大切であることを学びました。

また、先生は大学での外科実習講座において、手作りの木製趾端モデルを用いた実習や、学生に2級削蹄師講習を受講させるなど、学生が大動物や蹄に興味を持つような内容を実践され、“蹄を診る”人材育成に力を入れていらっしゃることも大変印象に残りました。

今回の講演は動画をふんだんに用いたわかりやすい内容でありました。(資料にあるQRコードを読み取れば治療方法などの動画をスマホでみることができます。)大動物の蹄はアプローチが難しい部位かもしれませんが、動画を用いることで何度も見返すことができ、理解を深めることができる大変便利なツールであると思いました。

講演の内容は、すぐに農場指導に取り入れることができるものが多く、大変有意義なものでした。阿部先生には引き続きのご指導をお願いしたいと思います。阿部先生、今回は貴重なご講演をありがとうございました。



阿部先生のオンライン講演

## 令和3年度第3回理事会開催報告

常務理事 酒 井 理

令和3年10月28日(木)13時30分から、県獣医師会館2階会議室において、令和3年度第3回理事会を開催しました。

理事13名、監事3名の全員の出席により、次の4つの議案について、審議していただきました。

第1号議案 令和3年度事業の件(報告事項)

第2号議案 令和4年度事業の件(承認事項)

第3号議案 山口県獣医師会広報広告等取扱内規の一部改正の件(承認事項)

第4号議案 山口県獣医師会館の件(承認事項)

第1号議案から第3号議案については、第1回支部長会議の議題1から3と同じ内容であり、会報10

月号に概要を掲載しましたので、説明は省略します。

第4号議案については、第1回支部長会議において、「会館取得についての検討を急ぐため、理事会に諮るべき」との意見があり、今回、会館取得についての検討を開始することを議案として提出したものです。

理事から「会館建設でなく賃貸にしてはどうか」や「現在の会館があとどの程度使用できるのか」等、多くの意見が出され、田中会長が「新規建設ありきではなく、ゼロベースで検討したい」と説明されました。

提案した4議案全て、全員一致で議決されました。

## 時重初熊先生墓碑掃苔供養

常務理事 酒 井 理

11月14日(日)朝8時30分から、周南支部会員と事務局計13人が周南市戸田山の墓苑に集まり、日本近代獣医学教育の祖 故時重初熊先生の墓碑掃苔供養を行いました。

前日までの雨もあがり、日差しが降り注ぐ中、息をきらしながら約100mの急な坂路を登り、墓碑や立て看板の周囲の雑木の伐採や落ち葉の除去等に汗を流しました。

初めて参加した私ですが、清掃を終えて、日本の

獣医学の発展に貢献された偉大な大先輩のお墓に手を合せるときに、背筋が伸びる思いがしました。

今年は新型コロナのまん延状況を考慮して、盆前ではなく、時重先生の生誕月の11月に開催しました。参加者からは、「暑くて蚊の多い夏場より、この時期が良い」という声もあり、次回の令和5年度の参考にしたいと考えています。

時重先生のお墓参りを希望される方は、墓苑の位置など、事務局にお尋ねください。



## 「第10回ペットとの共生推進シンポジウム」を聞いて

山口支部 中間 實 徳

(山口大学名誉教授・東亜大学獣医看護学コース客員教授)

ペットとの共生推進協議会主催の標記のシンポジウムが2021年(令和3年)11月7日(日)13:00-16:00にオンラインで開催されたので、その概要をお知らせします。

開会に当たり、赤津・ペットとの共生推進協議会

会長から挨拶があり、どんなペットでも飼うことが人生を豊かにすると話され、今日の開催を楽しみにしていると話されました。

シンポジウムの後援となっている環境省の野村環・動物愛護管理室長からは、現在日本では、犬・

猫の飼育頭数は約1,800万頭で14歳以下の子供の数よりも多い。そして、愛玩動物取り扱い適正化では、繁殖年齢や分娩回数制限が必要である。また、各自治体は殺処分頭数をさらに減らし、譲渡の推進を図らなければならない。そして、愛玩動物を大切に飼育して欲しいと話された。

基調講演として、星 旦二・東京都立大学名誉教授・放送大学客員教授は、①田舎の人は長生き。②ペットを世話している人は長生き。③前向きな人は長生き。④BMI(Body Mass Index: ボディマス指数)は24-28の人が長生き。⑤抗生物質が効かなくなっている。⑥ペット数で日本はアメリカの1/3だ。長寿の話の纏めとして、①口腔のケア。②豊かな食事。③ペットの飼育でオキシトシン増加と心臓病の患者の生存率が上昇。④13年間の調査で要介護者数がペットを飼育することで減少した等を話された。

司会の越村義雄・ペットの共生推進協議会理事/シンポジウム実行委員長・人とペット幸せ創造協会会長は、星先生への謝辞を表された後、持論してペットを飼える条件には、収入がある程度ある人、ペットを愛せる心の人でないといけない、また公的責任と公民協働が必要だと話された。

パネラー① 山本和弘・帝京大学アニマルサイエンス学科准教授は、国内の犬・猫の2020年の飼育頭数は犬: 848万9000頭、猫: 964万4000頭で、2012年に比べ犬は284万5000頭、猫は10万4000頭それぞれ減少した。また、飼育世帯数では、日本では、犬: 11.9%、に対しアメリカでは、38.4% 猫は9.6%に対し25.4%といずれも3倍近い開きある。アメリカでは犬・猫の他エキゾチックアニマルを飼育している家庭も多く、67%の家庭で動物を飼っている。また、動物の人への健康面おける利点として、●オーストラリアで894の犬の飼育家庭の調査で、人の運動量は非飼育者の1.89倍と高かった。●コロナ禍におけるペットの役割について、アメリカの青年1033人を調査したデータでは、ストレスの軽減が認められた。●ペットの飼育は子どもの成長過程おける情緒の育成や精神面へ大きく影響する。また、免疫力の増強にも効果あると話された。

パネラー② 小林真朝・聖路加国際大学大学院看護学科准教授は、WHOの言う「健康とは、肉体的、精神的、社会的にも全てが満たされた状態である。」これには、主観的健康と客観的健康の概念がある。2019年厚労省の発表では、悩みやストレスを抱える人が増えている。老人ホームを犬同伴で訪れると、抑うつの人が良くなる。孤独感の緩和という心理的効果が認められた。犬所有者は近隣での人との知り合いが増え、話をする事で地域の社会活動

への参加が増える。犬を飼うことのメリットは、犬に癒され、心の安寧を得る。犬は絶えず愛情を示してくれ、ペットの世話を通じて体力作りや生活リズムの維持ができるという身体的側面や、犬が家族の緩衝材となり、語る機会が増え、飼育仲間同志での話が出来て、精神的・社会的側面に良い効果をもたらす。ペットを含めたAdvanced Care Planning (ACP) という考え方では、ペットの暮らしをどう叶えるか? ペットの最後をどのように捉えるか?等を話された。

パネラー③ 谷口 優・国立環境研究所主任研究員は、「Human-Animal Interaction」に関する研究論文を調査して、●犬や猫の飼育が高齢者の健康長寿に寄与しているのか? ●New York Timesの記事を引用して、犬を飼うことが寿命を伸ばすという事を直接証明したわけではない、と紹介された。健康寿命の考え方として、自立→脳卒中で要介護状態→骨折で要介護→肺炎で死亡という経過の疾患モデルを考える時、フレイル(Frail: 虚弱)モデルという予備能力低下を考えることを話された。また、犬または猫のオーナーの身体・心理・社会的特徴について日本での調査では、歩行による身体的活動の上昇と社会的機能の上昇がみられたことを話された。さらに、東京都大田区で65歳以上の15,500人について、2016年と2018年でのフレイル発生のリスクを比べると、犬を飼ったことのない人は飼っていた或いは現在飼っている人に比べ、リスクが約20%低下していたと話された。

最後に質疑・応答があり、①飼育者の80歳台からの方が減少しているがとの質問に、高齢者が飼いやすい状況を作っていかなければならないとの山本先生の答弁があった。また、司会の越村氏は、60歳以上の人に犬・猫を譲渡しないという日本のやり方は良くない。ドイツのようにTier Heim(動物の家: 動物の保護施設)を設けて、譲渡された犬・猫を高齢者が飼えなくなったらそこで引き取り、天寿を全うさせるという方法が必要であると話された。②猫の飼育の問題で、住宅メーカーを含めたシンポジウムで、猫が壁を傷つけないような工夫や習性を考えた立体的な猫の遊びができる壁を設けるという話を越村氏は紹介された。③ペットを飼えなくなった場合の方策については、これは重要な問題でアニマル・シェルターに持ち込まれるペット・特に子猫が増えていると山本氏は紹介された。

以上、基調講演と3人のパネラーおよび司会者の大変有意義な熱のこもった良いシンポジウムであったと感じました。

## 趣味の話

下関支部 吉村 大一郎

(よしむら動物病院)

寒さ厳しい折、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか？今年も新型コロナウイルス感染症により対面での会合やセミナー、恒例のイベントなんか軒並み中止となり、オンライン中心の1年でしたが、ここに来て新規感染者数も激減し今まで後ろめたい感じだった県外への移動も少しだけしやすくなったように思えます。けれど次々に発見される変異株関連のニュースが毎日のように流れていて、さきの見えない状況はまだまだ続きそうです。

さてここ2年近く県外への移動を自粛してきましたが、1日の新規感染者数が一気に一桁台になったこともあり、今がチャンスだと思い切ってお隣の福岡へ車で出かけてきました。行った先は自分の趣味のひとつがプラモデル作りなので、今回は自分の趣味のひとつがプラモデル作りということもあり、前々から行きたいと思っていた”THE GUNDAM BASE FUKUOKA(ガンダムベース福岡)”に行ってきた。知らないという方に簡単に説明させていただくと、機動戦士ガンダムというアニメ関連のプラモデルを販売している株式会社バンダイという玩具メーカーが全世界に向けて展開する公式ガンプラ（ガンダム関連のプラモデルの通称）総合施設ということになってます。ショップ内では限定品のプラモデルの販売や実際にそこで作ったり展示したりするスペースもあり、有名なモデラーさんや今流行りのYouTuberさんの作品なんかも展示されていてガンプラファンにはたまらないショップです。東京に続いておとし福岡のキャナルシティ博多という商業施設の中の一店舗として開店していたのですが、気がつけばコロナ禍に突入し県外への移動ができない状況になっていたので行けなくなっていました。お店の中には女性客の方も多く、最近はYouTubeで若い女の子がプラモデルを作る動画も多く配信されていてガンプラブーム再来で、コロナ禍になって結構プラモ人口が増えたととも言われています。自分は幼少期からプラモデル作りが好きで、戦車や軍艦やお城や車やアニメに出てくるマシンやロボットなど手当

たりしだいに作っており、ガンプラに関してはアニメが放送された翌年の1980年7月に販売が開始された当時中学1年だった頃、クラスでも模型造りのうまい友人数名の影響を受けてはまってしまいました。発売当初は流通自体が少なく、近所にあったおもちゃの間屋まで行き、次の商品の入荷時期をお店の方に聞いたりしたものでした。高校受験から大学受験の頃までは一旦プラモデルからは離れましたが、大学に入ったころ新発売のゲーム機を買いに行ったおもちゃ屋のプラモデルコーナーで、塗装しなくても色分けが再現され接着剤を使わずにパチパチと組み立てられる進化を遂げたガンプラを見つけ感動し、またそこからプラモ熱がふつふつと湧いてきました。それでも大学時代作ったのは懐かしさから数個くらいで、本格的に始めたのは経済的な理由からもここ十数年といった感じです。今でもガンプラ以外にも戦車や大好きなSF映画のスターウォーズに登場するロボットなども、いろんな方の作例を参考に作ったりしています。このコロナ禍でおうち時間が増えたことにより、もともとインドア派だった自分の趣味に費やす時間が更に増えたような気がします。久しぶりに出かけたのにほぼガンプラショップで時間を潰し、ますます外に出かけなくなる材料を仕入れてきた1日でした。約2万円分のプラモデルを買うためにかかった交通費が約6千円で、今やオンラインで送料無料が当たり前前の時代ですが、そこに行かないと買えないショップ限定のプラモデルが手に入り本人としては大満足でした。まだ他にも作っていないプラモの箱が山のように積んである部屋の一角を眺めながら、ああしようこうしようと思案にふける日々が続きます。プラモデル作りは細かい作業なので、指先の訓練と集中力を養うのにもボケ防止にもいいですよ、ととってつけたようなことも言ってみたりして…。

では会員の皆様の変らぬご健康を祈りつつ、本業の手を抜くことなくコロナ禍を頑張っていこうと思います。



以前作った映画スターウォーズに登場する人気のドロイド（ロボット）



今回手に入れた限定物3つ

## 水野拓也教授が「日本獣医学会賞」を受賞しました

山口大学支部 佐藤 晃 一

(山口大学共同獣医学部長)

この度、本学共同獣医学部の水野拓也教授が、「2020-2021年度日本獣医学会賞」を受賞しました。

本賞は、獣医学の領域において顕著な研究業績をあげた日本獣医学会正会員に対し授与されるものであり、昨年度はコロナ禍により選考中止されていました。

水野教授の業績は「犬の悪性腫瘍に対する新規治療法の開発とその臨床応用」であり、犬の高齢化とともに増加する悪性腫瘍について、様々な方面から治療法の開発を行ってきたことです。特に、腫瘍溶解性ウイルス療法、免疫チェックポイント阻害分子抗体療法、抗CD20抗体療法については、獣医師主導臨床試験によって進行期のがんの犬において一定の効果が認められることを明らかにしました。今後は、これらの結果に基づき、動物用新規抗がん治療法が製薬化されることが期待されています。

今回の受賞に対して、水野教授ご自身も「臨床獣医師として目の前のたくさんの助けられないがんの犬たちをこれまでに診てきて、少しでも研究面から救える方法を開発できないかと思ってやってきたこ

とが少し形になり、それが日本獣医学会の権威ある賞という形で認めていただけたのでとてもうれしいです。ただし、実際には現在実施している治療法を製薬化することによって、広く一般診療で使用できるようにすることではじめて臨床獣医学に貢献できるので、日本発【初】の犬のがんの治療薬を世界に発信できるように引き続き尽力したいと思います。」と受賞を喜ばれています。



### お知らせ

#### 令和3年度第1回小動物講習会のご案内

下記のとおり開催します。多くの皆様の参加をお待ちしています。

- 開催日時：令和4年1月16日(日) 10時～16時
- 演 題：「獣医眼科診療の検査法と眼科疾患へのアプローチ」
- 講 師：米国獣医眼科専門医 比較眼科学会獣医眼科学専門医  
どうぶつ眼科専門クリニック院長 辻田裕規先生
- 会 場：防長苑(山口市熊野町)
- 参加申込：令和4年1月6日(木)までに事務局に申し込んでください。  
※動物看護師や学生など会員以外の方については、参加費をいただきますのでお問い合わせください。

#### 愛玩動物看護師法に関わるアンケートについて

令和4年5月1日に完全施行される愛玩動物看護師法への円滑な対応に向け、関係会員向けのアンケート調査を実施していますので、御協力をお願いします。

- 提出期限：令和3年12月22日(水)

### 事務局だより

- |        |                                      |            |                       |
|--------|--------------------------------------|------------|-----------------------|
| 11月14日 | ・時重初熊博士墓碑掃苔供養の集い(周南市)                | 11月26日     | ・中国地区獣医公衆衛生講習会(オンライン) |
| 11月18日 | ・改正動物愛護管理法及び愛玩動物看護師法に係る説明会(日獣 オンライン) | 11月30日     | ・動物愛護管理推進協議会(県庁)      |
| 11月20日 | ・産業動物講習会(山口大学)                       | 11月30日     | ・会報編集委員会(獣医師会館)       |
| 11月25日 | ・第2回小動物部会委員会(獣医師会館)                  | 11月11日、25日 | ・事業推進会議               |

次回編集委員会 12月21日(火) 13:30～

山口県獣医師会会報 第727号 令和3年12月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 上田 晋平

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷